



陣内俊 Prayer Letter

Designed by CORKSCREW DESIGN WORKS /2008/All Rights Reserved

2025 年 10-12 月号

Vol.71

支援者の皆様へ

支援者の皆様、いつもお祈りと尊いご支援を心より感謝いたします。

お知らせしていたとおり、10月16日に引っ越しをしました。しばらくは疲労と混沌の日々でしたが、11月に入ると生活はひとまず落ち着き、家族の「新しい日常」がスタートしたという新鮮な気持ちです。

私は幼いころから核家族で育ち転勤族でもありましたので、祖父母の家は常に「遠くに訪ねるもの」でした。今、人生で初めて義理の母世帯と私たち家族4人の「二世帯・三世代の生活」を体験し、今まで知らなかった豊かさを味わっています。子どもは時折何かをもって「おばあちゃんに見せてくる！」と二階に行きますし、義理の母も嬉しそうに頻繁に降りてきてくれます。「スープが冷めない距離」とよく言いますが、徒歩0秒のところに「おばあちゃん」が住んでいることは恵みです。子どもたちにとって「父母以外の大人」がいることの意味はきっと大きいものでしょう。



かつては「子どもは地域で育てるもの」という共通認識があり、三世代、四世代で暮らす世帯も多かった日本社会ですが、現在では三世代家族の割合は全体の7.7%だそうです（内閣府2020）。昔は昔の大変さや苦勞もあったでしょうし、現代的な単身化や核家族化によって良くなったことや自由になったこともあるでしょう。またどのように住まうか、生きるかは100%の自己決定権が保証されるべきですし、そこに優劣はまったくありません。それはそれとして「様々な世代の多様な大人を身近に見て子どもが育つ」ということは1977年生まれの私自身も持つことのできなかつた豊かな経験だと感じます。このような経験をさせてくださっている神さまと妻と義母、そして亡き義父に感謝しております。

——万軍の主はこう言われる—— 再び、エルサレムの広場に、老いた男、老いた女が座り、みな長寿で手に杖を持つ。都の広場は、男の子と女の子でいっぱいになる。子どもたちはその広場で遊ぶ。

ゼカリヤ書8章4節

お祈りとご支援とご協力をお願い

FVI の 2024 年会計年度（2024 年 9 月 1 日～2025 年 8 月末日）が約 240 万円 の赤字決算となりました（監査された会計報告は FVI の HP にて毎年公開しています）。ひとつの原因として「カタリスト陣内指定献金」の減少があり、理由のひとつに私が「福音的 LGBTQ+アライ」を公言して活動しはじめたことが考えられます。私は自らの活動を道義的にも倫理的にも間違っているとは考えておらず、むしろ教会の中に差別や偏見があるときに、「沈黙」や「中立」を選ぶことこそ「差別や偏見への無自覚な荷担」でありイエスの歩みとは違うと確信しています（『イエスと非暴力』ウォルター・ウィンク）。

しかしながら現実問題として私が LGBTQ+アライの立場を表明してから支援を差し止めた方はいらっしやいましたし、「教会としての支援を止める」という教会も複数ありました（誤解を招く前に急いで申し添えるとその方々や教会は「主にある確信」として祈った結果そうされているのですから、責める意図はまったくなく「私とは違うその確信」を今後も私は尊重します）。また、私の活動を理由に、ジェンダーと全く関係のないテーマだったとしても講師や説教者として招けなくなった教会もありますし、支援を呼びかけるための「デピュテーション」をさせていただける機会も激減しました。

ジェンダー問題について日本の福音派の教会全体の理解や見解の潮目がいつか変わることを私は確信していますが、それが「いつ」起こるかは分かりません。あと 10 年かかるかもしれませんし、私が生きている間にはついぞ変わらないかもしれません。どちらだったとしても私はこの課題に命を賭けて取り組んでいく決意には変わりません。しかしながら、「当面この状況が変わらない」とすると、経済的な理由で私の活動は今のような形では継続困難になってしまうことも考えられます（どのような形になっても「性的マイノリティの尊厳のために声を上げるという召し」には従っていく所存ですが）。

これを読んでくださっている、今も支援を継続してくださっている皆様にはいくら感謝しても感謝できませんし、この厳しい時世のなか「もっと多く支援してください」とはとうてい言えません。しかし、もしよろしければ、祈っていただけると感謝です。祈りには力がありますから、主が願われるなら必ず、必要は備えられ財政は健全化すると信じています。また、私の活動を知った上で招いてくださる教会や、新たに支援したいと願うような個人を、もし皆様をご存じでしたら私の活動を口コミで伝えてくださったり、ご紹介くださったら本当に感謝ですし力になります。

改めて今も私たちと共に歩んでくださる支援者の皆様に感謝申し上げます。

妻について

2012 年に結婚してからこれまで一度も、妻についてこのような形ではこのレターに書いては来ませんでしたが、支援者の皆様に祈っていただきたく改めて妻・純子の果たしてくれている役割についてご紹介させてください。私の活動は妻の存在なしには成立しません。「陣内俊を支える会」と FVI の会計事務、紙媒体のプレーヤーレターへの一筆メッセージと郵送作業、FVI の献金者への領収書づくりとその送付、所属教会の支援者へのきめ細やかなフォロー（こちらは FVI ボランティアの中泰子さんとともに）などなど、事務能力が「ほぼゼロ」で、対人関係でのきめ細やかさを欠く、ずばらで気が利かず無配慮な私を補うためにいつも立ち働いてくれています。自宅を「神の国の出張所」と考え、様々な悩みを抱えた方々を家に招き、出向いて寄り添い、聖書の学びを共にするなど、FVI の理念にある「声なきものの友」としての神からの召しを果たしています。

「自営業の夫婦」で妻が事務を担うような状況ですからその実態は違うのですが、社会的には「専業

主婦」ということになります。日々の家事に加えて子どもたちの世話をし、教会では次世代の子どもたちのためのメッセージや奉仕を頑張り、家庭でも毎朝一緒にデボーションをし、家庭の中にいつも「神の臨在」があるのは妻によるところが大きいです。

私にとって最も大きいのは、妻が私の「一番の理解者」でいてくれることです。妻はもともと「幼稚園教諭の仕事」を辞めて開発途上国の貧しい人々に仕えたい」という願いをもっていて、それを FVI の神田師に相談したところから私を紹介されたという経緯があります。公務員を辞めて宣教の働きに飛び込んだときから、自分の人生はきっと困難も多いものになるだろうと予想していましたので、「同じように宣教の道を志している女性」でないと結婚するのは難しいのではないかと考えていました。振り返るとき神さまは本当に願った以上の相手を与えてくださったと思っています。鬱病の 2 年間を支えてくれたのはもちろんですが、この数年は「LGBTQ+アライ」を公言して活動するなかで、ここには書けませんが様々な辛い思いをすることもあります。自らの至らなさゆえにそうになっているならば猛省し改善するという話なのですが、中には理不尽な目に遭うことや悪意ある非難なども含まれます。歴史の中で抑圧された少数者の尊厳のために立ち上がった人々は例外なくそのような目に遭ってききましたから驚くようなことではないのですが、それでも毎回、ちゃんと傷つき、落ち込みます。そのような中、最も近くにいる妻が、この苦しみはイエス様の十字架の苦しみとつながっていることを理解してくれることに救われてきました。また多様性を言祝ぐ社会やイエスの愛に生きる教会の姿を私以上に強く願っていてくれる妻の存在に何度励まされたか分かりませんし、「戦友」としての妻の存在なしには進み続けられなかっただろうと思うことも多々ありました。

何が言いたいかと申しますと、どうか妻のために祈ってください。このレターでは「陣内俊の活動」のためにいつもお祈りをお願いしているわけですが、どうぞ妻のためにもお祈りくださいますと幸いです。敢えて紙幅を裂いてお願いすることに恐縮しつつも、改めて妻の健康が支えられ、いきいきと神さまの召しを果たしていくことができるよう、ご加禱くださいましたら幸甚です。

東京都内・某教会の「青年パーティー」での奉仕と結婚について

11 月 3 日に東京都内の教会の「青年パーティー」で奉仕させていただきました。教会が高齢化し、クリスチャン人口が少ない日本で、未婚のクリスチャンの男女が出会い結婚することはとても困難で、それは私もかつて身をもって体験したことでもあります。結婚後、愛知県の教会で若者のためにした「結婚前の信仰者が知っておくべき、恋愛・結婚に関する 25 のこと」というタイトルの講演を 2018 年に YouTube にアップロードしたところ、現在までに 14,000 回以上の再生数があり、過去には「東北の超教派のユースの集会でこの動画が流されていた」と人づてに聞いて驚いたこともあります。

都内の教会で「青年パーティー」を開催してくださっている方が今年、会の中でこの動画を流してたいへん感銘を受けて下さり、「次は本人を呼ぼう」と声をかけてくださったのです。会場には男女各 11 名、22 名の参加者の方が集まっており、温かい雰囲気の中配慮の行き届いた運営に教えられることも多々ありました。今回の奉仕を通して改めて「結婚とは」ということについて言葉にし、聖書が結婚について語っていることについて思いを馳せられたことは私にとっても良い経験になりました。私たちが神を中心とする家族の模範だと主張するつもりは毛頭ありませんが、「神が特別に大きな恵みを与えてくださった家族」としては模範かもしれないと思います。講演と質疑応答のあと、参加者もスタッフの方もそこにいた既婚者の方も「本当にこの話が聞けて良かった」と口々に言ってくださいました。結婚に希望をもつことが難しい時代に、小さな貢献をさせていただけたことを主に感謝しました。

祈りの課題

- ◇純子・かなえ・ななみ・俊の体調が守られ、感染症、事故などからも守られるように。
- ◇新しい住まいで新しい生活がスタートしました。この場所に神が臨在し、それぞれの働きや歩みが主によって導かれるように。この場所が神の祝福の出張所となるように。
- ◇FVI「声なき者の友」の輪の財政が 2024 年会計年度、かつてなく非常に厳しい状況でした。今後も神の働きに参画させていただくことが御心ならば、財政状況が改善し活動が継続されるように。新たな支援者・支援教会との出会いが与えられるように。
- ◇「マイノリティの尊厳のために声を挙げる働き」は共に歩んでくれる仲間なしにはなしえない困難な歩みでもあります。神さまが必要なアライや当事者との出会いを与え、連帯して声を挙げていくことができるように。

2026 年 1 月以降の主な活動予定

月 日	内 容	場所、補足
1 月 25 日	礼拝メッセージ奉仕	幡ヶ谷バプテスト教会
2 月 16 日	FVI 役員会	聖契神学校（目黒区）
5 月 12～15 日	FVI 執行役員会	万座温泉ホテル（群馬県）
随時継続的に	教会を建て上げる情報発信／訓練／啓発（エペソ 4：12）	国内各地／オンライン

* 上記は現在までで分かっている暫定的な範囲の予定です。

連絡先（奉仕・各種仕事のご依頼はこちらへ）

陣内への Email shun@karashi.net 無料メルマガ、YouTube 放送、Podcast、ブログなど→「陣内俊」で検索

ご支援のための献金方法

私の活動は、支援者の皆様の善意の支援献金によって支えられています。経済的支援をもってご協力くださる方は、お手数ですが以下のいずれかの方法で口座にお振込ください。ご支援を心より感謝いたします。

- ゆうちょ銀行口座番号 12110-91889141 名義：「陣内俊を支える会」

■他行からの振込 店名（店番）：〇八九（ゼロハチキュウ）（089）預金種目：当座
口座番号：0142825 「陣内俊を支える会」

■郵貯振替口座番号 00830-1-142825 名義：「陣内俊を支える会」
（同封の振込用紙がご利用いただけます。）

- *振込用紙をご入り用の方、ゆうちょ口座からの自動引き落としを利用されたい方はお知らせください。
- *振込用紙（赤色・手数料当方負担）を同封いたしますが、振込用紙は決してご支援を催促するものではありません。お振込くださるときにご利用ください。（毎月ご利用の方のために複数枚同封しています。）
- *Prayer Letter の購読、自動引き落としを停止されたい方、またはお届け先の住所に変更がある方は、お手数ですが、上記連絡先のいずれかにご連絡ください。